

ESD の将来に関する加盟国協議（概要）

開催日：平成30年7月9日（月）～10日（火）

開催地：バンコク（タイ）

目的：GAP 後継枠組案（2018年4月開催の第3回GAP キーパートナー会合での議論を基に加筆修正されたもの）に係る加盟国との意見交換。

出席者：270名程度、加盟国（政府レベル）は118か国（アフリカ33、アジア33、アラブ14、北米・欧州18、中南米20を含む、出席率57.3%）、UN機関等が出席。

概要：

- ユネスコ本部は加盟国協議での議論を基にGAP 後継枠組案を大幅に変えるつもりはなく、会合を通じてユネスコ本部自身が気づいた不足箇所を加筆し、内容はそのまま更に読み手に分かりやすい構成へ変更予定。
- GAP 後継枠組の名称案「ESDGs Programme (= Education for Sustainable Development Goals Programme)」については、加盟国より「ESD 自体はGAP 後になっても変わるものではない、継続性があるものなので、ESDGs といったGAP と異なる名称にすべきでない」「GAP から引き続きESD について活動するため新しい名を付ける必要はない」「ようやくGAP が根付いた国には新しい名称は混乱を招く」というコメントが多かったことから、ユネスコ本部は現行の「GAP」はそのまま残し、サブタイトルで補う方向で加筆修正予定。
- GAP 後継枠組案に係る今後の予定
2018年7月～8月 GAP 後継枠組案の加筆修正
2018年8月末頃 ユネスコ本部から日本へ意見照会
2018年9月 オンライン協議*
2018年末 GAP 後継枠組案まとめ終了
2019年春 第206回執行委員会（ユネスコ本部よりGAP 後継枠組案提出）
2019年秋 第40回ユネスコ総会にて採択（予定）
2019年 第74回国連総会にて採択（予定）

※ オンライン協議では、加盟国協議の議論を基に加筆修正されたGAP 後継枠組案をユネスコウェブサイトに掲載し、人々からコメントを送付してもらう形式で実施予定。

(別添)

補足情報：

- 会議では、サブ地域レベルで GAP 後継枠組を実施する上での主な課題及び ESD の機会について議論。
東アジアグループ（中国、韓国、モンゴル、日本、マカオ）での議論の結果は以下の通り。
 - ・ 課題
 - 環境的課題
例：自然災害、食糧不足、食品廃棄物の増加
 - 社会経済的課題
例：若者と高齢者、都会と地方、貧富
 - 技術的課題
例：ICT、カリキュラム
 - ・ ESD の機会
 - 環境的課題
ESD を通じて災害軽減、持続可能な食、生産と消費に係る考え方の普及促進。
 - 社会経済的課題
課題への総合的/包括的観点、持続可能な活動に関する将来活躍する民間セクターへの教育、学校/公教育を越えた教育の拡大。
 - 技術的課題
全教育段階における STEM 教育で ESD を含ませる/主流化させることで、持続可能な社会の担い手を育成。
 - ・ 必要なこと
 - 学校、コミュニティ、民間セクター等におけるグッドプラクティスの特定・共有。
 - 教員養成、コミュニティ強化、若者との結びつき、民間セクター、市民団体、政府における能力強化。
 - 官民連携パートナーシップの構築。
 - 現存する障害の特定及び除去。
- ちなみに、各地域におけるディスカッションの結果（地域特有の必要性及び今後焦点を当てるべき領域）は以下の通り。
 - ・ アラブ
 - 必要性
 - ◇ ユネスコとの制度上の協力強化。

※ カリキュラム、教員養成、現地のグッドプラクティスに係る
ユネスコ・バイルート事務所との協力が必要。

- ◇ ESD への認知向上。
- 今後焦点を当てるべき領域
 - ◇ ESD 活動を行う若者たちのための年次会合。
 - ◇ ESD 活動分野別国のフォーカルポイント。
- ・ アフリカ
 - 必要性
 - ◇ ESD への認知向上。
 - ◇ ESD 活動のための資金集め。
 - 今後焦点を当てるべき領域
 - ◇ ESD 政策の開発。
 - ◇ ESD への認知向上。
 - ◇ ESD に関わる人材育成。
 - ◇ アフリカ連合の指導力向上。
- ・ 欧州及び北アメリカ
 - 必要性
 - ◇ 若者の ESD 活動への参加。
 - ◇ ESD が教育における価値へ高まること。
 - 今後焦点を当てるべき領域
 - ◇ 学校のための自治。
 - ◇ 各国の既存枠組との調和。
 - ◇ ESD を含める教育制度の今後の範囲。
- ・ アジア太平洋
 - 必要性
 - ◇ ESD と SDGs との考え方の整理。
 - ◇ 国の優先順位と矛盾する国際枠組への配慮。
 - ◇ 学校環境へ配慮した投資の不足。
 - 今後焦点を当てるべき領域
 - ◇ ESD は主体性、文化、コミュニティから始めるべき。